図書館だより
HAKUOH
第60号 2023. 4
白　鷗　大　学

私にとっての書物（愛読書）、それはヴォーカルスコア

名誉教授
荒　井　弘　高

今回「図書館だより」に寄稿のお話をいただき、驚きとともに“はて！どうしたものか”が正直な気持ちでした。というのも、普段図書館に通うことがあまりない私ですから・・・。

そんな私に、“私にとっての書物（愛読書）とは？”とあえて問えば、それは“楽譜”と答えるでしょう。専門が音楽、それも声楽であり、常に分厚いオペラのヴォーカルスコア（オペラをピアノ伴奏で歌えるようにした楽譜）との睨めっこが今でも続いているからです。そんなヴォーカルスコアとの関わりの一端をお話ししたいと思います。

私は、昨年も６月にはプッチーニ作曲「ジャンニスキッキ」のタイトルロールを、また９月にはヨハン・シュトラウス作曲「こうもり」のフランク役を演じる機会を得ることができ、年初めからヴォーカルスコアの譜読み生活が始まりました。「ジャンニスキッキ」はイタリア語（180ページ）で、「こうもり」は喜歌劇であるために原語のドイツ語ではなく日本語（195ページ＋大量のセリフ付き）での上演でした。

二曲とも当然のことながら暗譜での演技付き。稽古当初はひたすらリブレットを読み内容の把握、歌詞が口慣れてきたらピアノを弾きながらの音程練習、暗譜での稽古。さらには相手役の歌詞の内容、動きの把握等々、なんとか目処がつくまでにはかなりの時間を要すこととなります。

その後は、いよいよ本格的な立ちの稽古となり、オペラの神髄に迫ってゆきます。演技及び歌唱に関しては楽譜に記載されている卜書きを頼りにイメージを模索し、楽譜に書かれている詩の内容（心理描写）、情景（情景描写）をどう表現するか。また、演出家がオペラに対しどんなイメージを持っているか、何を要求してくるのか。キャストはそのことにより表現方法を見直し、イメージアップ。そして、そのイメージを観客にどう伝えるか。オペラ制作上ではこれらの稽古が最も充実した楽しい時となります。

今年も６月にプッチーニの代表作の一つ、オペラ「ラ・ボエーム」ハイライトのマルチェッロ役（画家）を演じる予定であり、これから稽古が始まります。また分厚いヴォーカルスコアとの戦いとなりますが、ボケ防止の一環としても楽しみたいと思っております。

オペラは一冊のオペラスコアからさまざまの事柄を読み取りそれを表現と結びつけるために、指揮者、演出家、キャスト、オーケストラ、合唱、舞台美術、照明、音響などの人たちが関わる総合芸術と言われています。

皆さんにも是非総合芸術と言われるオペラを鑑賞して欲しいと思います。それも、できましたら楽譜を見ながら（眺めながらでも可）ではどうでしょうか。また同じオペラでも関係する人が変わると、また違ったオペラとなるのも興味深いですね。全ては同じ一冊のオペラスコアから生まれるのですよ。

図書館ニュース

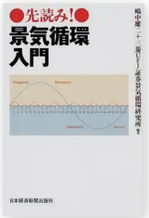
◆寄贈書案内

◉栗田誠先生（法学部教授）より

書名：独禁法そぞろある記：
　　競争法研究協会会長の一千日
著者：栗田誠著
発行：2022年11月　CLP研究会

会長も務められた先生の研究会等での挨拶や執筆したコラムなどを収録

◉嶋中雄二先生（経営学部教授）より



書名：先読み!景気循環入門
著者：嶋中雄二
　　三菱UFJ証券景気循環研究所編著
発行：2009年９月　日本経済新聞出版社

『日本経済新聞』の連載に加筆修正
景気循環のすべてをビジュアルに解説

◉小川博士先生（教育学部准教授）より

書名：今日からできる理科授業ICT活用
著者：山下芳樹［ほか］編著
発行：2022年８月　講談社

小中学校の先生に向けたICT活用の虎の巻。粒子領域執筆
個人向け電子書籍としても発行されています

◉仁平晶文先生（経営学部非常勤講師）より

書名：自分事化の組織論：
　　主体的に考え行動するためのストーリーとロジック
著者：佐々木利廣，福原康司編著
発行：2022年８月　学文社

学生、新社会人向きの組織論のテキスト
第３章と第４章を担当されています

◉畠中信夫先生（元法学部教授）より

書名：法令読解ノート 改訂版
著者：畠中信夫著
　　全国労働基準関係団体連合会編集
発行：2022年３月
　　全国労働基準関係団体連合会

法令を読むときに知っておくべき様々なルールを図解を用いて分かりやすく解説

◉川口佳子先生（元短大講師）より

書名：幸せを運ぶお地蔵さんの絵本
著者：江村信一監修
　　五十嵐綾子［ほか］著
発行：2020年４月　ゴマブックス

パステルシャインアートのミニ絵本
紺色のページを担当されています

つぶやき

コロナ禍の中で中止や縮小を余儀なくされてきたライブラリー・ツアーも、今年からは復活できそうである。好奇心全開の眼差しをした新入生に館内を案内するライブラリーツアーは、図書館員として楽しみなイベントでもある。

あらかじめツアーの順路は決めてあるが、案内の仕方は職員ひとりひとりに委ねている。お気に入りのコーナーやお勧めの本を案内するのも自由。新入生に、図書館＝自由な空間、という第１印象を持ってほしいからである。

とはいえ自由には代償もある。最近は館内でこっそり食事する輩がいて、目を光らせざるを得ない。学生には、自由は不自由を乗り越えて初めて得られる、と教えたい。

2023(令和５年) 4月1日　発行
編　　集　図書館だより編集委員会
発　　行　白鷗大学総合図書館
〒323-8586　栃木県小山市駅東通り2-2-2
ホームページ　https://library.hakuoh.jp
印　　刷　第一印刷株式会社

本を読むこと

名誉教授
市　村　充　章

小山市、宇都宮市など、残念なことにいい書店が少なくなってきています。みなさんは、どこから知識や智慧を得ていますか。

知識の源としての本に置き替ったのは、インターネットでしょう。ネット情報は膨大な情報空間で、求めている知識・情報が何でも直ちに無料で見つかります。ただ、豆知識ばかりで、人としての生き方、物の見方の本質（知恵）を得るのは難しいと思います。

私は、自分のことはさておき、ゼミ生には情操豊かな考える人になってほしいので、読書課題を出してきました。卒業生たちもこれは続けてと言ってくれます。今のゼミ生のために役立つと思う古典を10冊セットで選びましたのでご紹介します。

３年次

・「百人一首」昔、宇都宮氏の小倉山荘を飾った和歌。日本的感性、美意識を味わう。
・「古事記」日本の原点。神話と日本の成り立ちは国際派こそ知るべきです。
・新渡戸稲造「武士道」日本の精神性。勇気、潔さ、献身、高貴を身につけよう。
・福岡正信「わら一本の革命」自然農法を発明に至る農の根本を問い直し創造する天才的思考。
・カーソン「沈黙の春」化学物質の環境汚染が生物絶滅に導くと警告した最初の本。

４年次

・「ギリシャ神話」西欧文明発祥地の神話を読んで西洋文明の本質を知ろう。
・プラトン「ゴルギアス」きれいごとの押しつけ（SDGs、人権みたいな）、ポリコレの嘘に騙されない、ソクラテスの厳密な思考。
・「般若心経」色即是空、見えるものに実体なし。人が得た唯一無二の真理。
・「論語」江戸の武士全員が暗唱した行政の倫理学。読めば君子になれる。
・「老子」何事にもとらわれない心。ぐーたらダメ人間こそ理想の境地。

読み継がれた名著は、理解できなくても忘れても、読む人と読まない人では人格に大差がでます。実際に、ゼミ生が提出する感想文は、次第に内容が深まり面白くなってくるのでした。古典の中の人々はきっと皆さんの真の友になるでしょう。

水没からよみがえったお宝本

総合図書館
田　沼　泰　彦

そのお宝が本学の図書館にお目見えしたのは2001年のこと。いまから20年以上前の話である。本の名前は『スムマ・デ・アリスメティカ』。ちょうど500年前の1523年に、イタリアのトスカーナで出版された。書名を日本語に訳すと『算術、幾何比および比例総覧』で、算術百科事典として当時の数学知識を集大成した本書は、複式簿記を最初に理論化した出版物として知られ、会計学で重要な位置を占める。その当時の学術用語はもっぱらラテン語だったが、この本は庶民の言葉であるイタリア語で著されているのも特徴だ。著者は「会計学の父」といわれるルカ・パチョーリ（1445年～1517年）。『最後の晩餐』を制作中のレオナルド・ダ・ヴィンチとの交流もあったらしい。

本学所蔵の『スムマ』（略称）は第２版ではあるが、再版ですら日本で所蔵している大学は片手で数えるほどで、所蔵の手はずを整えた本学の元教授で図書館長だった渡辺金愛（かなめ・故人）先生は、「このような世界的貴重書を取得できたことは、白鷗大学の大変な栄誉であり、誇りであります」と記している（「図書館だより」第19号）。因みに本書の初版は、かのグーテンベルクの活版印刷を使った最初期の書籍で、古書市場ではインキュナブラと呼ばれる「超」稀覯本であり、バブルのころは１冊に数億円の値が付いたらしい。

その『スムマ』が予期せぬ悲劇に見舞われたのは、いまだ記憶に新しい2015年の大行寺地区における水害でのこと。２メートル近い床上浸水被害のなか、図書館に駆け付けた職員が目の当たりにしたのは、見渡す限り汚泥の海にプカプカと浮かんでいる『スムマ』だった。

とにかく500年も生きていれば、書物とて人間同様さまざまな出来事に遭遇するだろうが、水に浸かるという「事件」だけは、ものが紙だけに死にも匹敵する苦難だったに違いない。その過酷な運命を乗り越え、８年を越える修復作業を経て、このたび『スムマ』が図書館に戻ってきた。その詳細は新年度から予定している修復経過の展示をご覧いただきたい。

ここでは『スムマ』の復活を報告するにとどめるが、なによりもこの貴重な書物をよみがえらせてくれた「命の恩人」であるアトリエ・ド・クレの岡本幸治氏に感謝したい。岡本氏は日本でも有数の書物修復（ルリュール）の専門家であり、氏との出会いがなければ『スムマ』が本学に帰ることはなかったといっても過言ではない。まさに幸運な出会いだった。丸８年に及んだ修復作業は、氏の本に対する愛情の賜物に違いない。また、修復にあたってご協力を賜った明治大学図書館にも感謝したい。同じ版の『スムマ』を所蔵するお立場から貴重なご教示を賜った。これもまた尊敬すべき書物愛といえよう。

報告の結びに、この修復作業によって判明した『スムマ』の知られざる「歴史」について付け加えておきたい。ひとことで500年といっても、トスカーナから小山の地へ来るまでには数えきれないほどの人の手を転々と渡り歩いたはずである。それを悲喜こもごもの歴史と言い換えるのは容易い。本学の『スムマ』も今回が初めての修復ではない。その証拠に過去の修復の痕跡もいくつか見つかった。それらは今回と同様に、受難からの復活を意味する歴史かもしれない。と同時に、１冊の書物が享受したかけがえのない愛情の証しともいえるだろう。見事によみがえった『スムマ』が、これから未来に語り始めるのは、自らに注がれた愛情の尊さであるに違いない。学生諸君には、修復展示からその愛情の一端を感受していただきたい。

＊『スムマ』は図書館本館の２階に展示してあります。また修復作業のパネル展示会は本館２階にて近日開催する予定です。